

3. 保護者の皆様へ、事故防止のためのアドバイス

(1) 海

- ① ライフセーバーや監視員等がいるなど適切な安全管理が行われている海水浴場で、指定された遊泳エリア内であることを確認して泳ぎましょう。必要に応じて、ライフジャケットを使用しましょう。遊泳禁止となっている場所では、絶対に泳がないでください。

令和2年の夏は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年であれば、海水浴場として開設されている場所が開設を取りやめるケースが多くみられました。開設されていない海水浴場では、適切な安全管理が行われず、ライフセーバーや監視員等の不在による救助の遅れや、遊泳区域が設定されていないことによる、水上オートバイ等と遊泳者の接触事故の発生が懸念されます。事前に海水浴場が存在する地方自治体のホームページ等で公開されている開設されている海水浴場に関する最新情報を入手し、遊泳区域内で安全に海水浴を楽しみましょう⁷。

遊泳エリアには、旗（エリアフラッグ）が立てられ、遊泳区域を示すブイロープが張られています（図14）⁷〈後記参考1〉。津波など緊急時に振られる緊急避難フラッグもあります。緊急避難フラッグが振られたら、ライフセーバー等の指示に従い、陸に上がり避難しましょう。



図14 エリアフラッグ及びブイロープによる遊泳区域の例

- ② 海の状況は、日ごと、時間ごとに変化します。風の向きや波の高さ、満潮か干潮かをしっかり確かめてから入りましょう。大人は**Keep Watch**を心がけ、子どもから目を離さずに手の届く範囲で見守りましょう（図15）⁸。



図15 水辺では必ず見守る

- ・子どもは危険が近づいていても察知することができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがあります。
- ・飲酒すると判断力が鈍くなり、溺れやすくなるとともに、溺れたときの死亡率も高くなりますので、「飲んだら泳がない」を徹底しましょう⁷。



（JLA 海岸利用啓発ポスター）

⁷ 海上保安庁ウォーターセーフティガイド（遊泳編）

⁸ JLA ジュニアライフセービングテキストブック

- ・海に行く前に、あらかじめ天気や潮の満ち引き等を調べておきましょう。遊泳中、天気が悪くなると、強い風や落雷、高波による危険が増したり、海のそばでも波が打ち寄せ通ることができなくなる場所や、潮が引いているときには浅瀬でも、潮が満ちると歩いて帰れなくなる場所があります¹⁰。潮汐は海上保安庁ウェブサイトの潮汐推算のページ⁹から確認できます。



(JLA 海岸利用啓発ポスター)

▶ 海の安全情報

全国各地の灯台やライブカメラなどで観測した風向、風速、波高などの「海の安全情報」をリアルタイムに提供しています。

パソコン用

スマートフォン用

▶ 海難速報

海上保安庁が広報した海難の被害を毎日掲載しています。

③ 離岸流に注意！発生しやすい場所や対処などを知っておきましょう。

離岸流（リップカレント）（図16）¹⁰とは、沖に向かって発生する強い流れのことです。JLAによると、海水浴場における溺水事故の自然要因の多くが離岸流によるものです。離岸流はとても強い流れのため、一旦この流れに巻き込まれてしまうと、気が付かないうちに沖まで流されてしまい大変危険です。



図16 離岸流

(リップカレント)

河口付近、堤防沿い等の人工物付近、岩場など離岸流が発生しやすい場所には入水しないでください（図1再掲）。

もし、離岸流に流されてしまっても落ち着いてパニックを起こすことなく横に移動して流れから逃げましょう。

*** 離岸流のある場所の特徴**

- ・周りと違って濁った色に見え、波が砕けにくい
- ・浮き輪などの浮遊物、波の白い泡や海藻、ゴミなどが集まって沖へ流れる

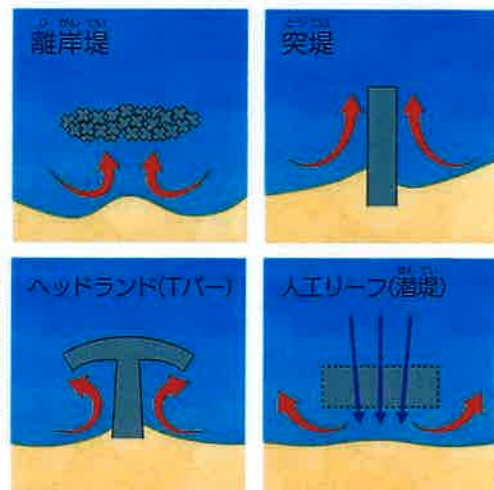


図1 離岸流の発生しやすい場所

(再掲)

また、フロートなどの大きな浮き具は風の影響を受けやすいので、風に流されないよう注意しましょう<後記参考3>。フロート遊具は対象年齢を守り、ライフジャケットを体に合わせて正しく着用

させてから遊ばしましょう。保護者はフロートに乗った子どもから手を離さ

⁹ https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TIDE/tide_pred/index.htm

¹⁰ JLA 離岸流啓発ポスター

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/assets/pdf/materials/poster01.pdf>

ず、フロートの上で立ったり座ったりするときは慎重にさせ、取っ手がある場合はしっかりつかまるように教えましょう。

また、ビーチボール等が沖に流されても、無理して追わないでください。

- ④ 堤防などで釣りをする際にも、海への転落の危険があります。滑りにくく、かかとのある履物を履いていきましょう。堤防には離岸流が発生していることがあります。万が一落ちてしまったときのためにライフジャケットを着用し、堤防の縁からのぞき込まないようにしましょう。立入禁止区域には絶対に入らないでください。



自分で自分を守る

浮く物やライフジャケット、簡易的な応急手当ができる準備をしましょう。

(JLA 海岸利用啓発ポスター)

子どもが水域でのレジャー活動等をする際は、必ずライフジャケット等を正しく着用させましょう。ライフジャケットの着用は水中で呼吸を確保する最も有効な手段です<後記参考2>。

念のために、ペットボトル、クーラーボックスなど、浮き具として使えるものを確認しておきましょう。岩場では生き物の観察が楽しめますが、滑りやすい上、流れが複雑なので水に入らないようにしましょう。岩場でもライフジャケットを着用しておくことが大切です。

(2) 川

- ① 川の流れは一見穏やかに見えても、地形などの影響で流れが一定ではないこともあります。事故の多くは穏やかそうな流れで起きています。必ず滑りにくく脱げにくいかかとのある履物を履き、水面でも楽に呼吸ができるようにライフジャケットを着用して近づきましょう(図17)¹¹。

また、帽子やサンダルなどが流された場合、決して拾いに行かないでください。

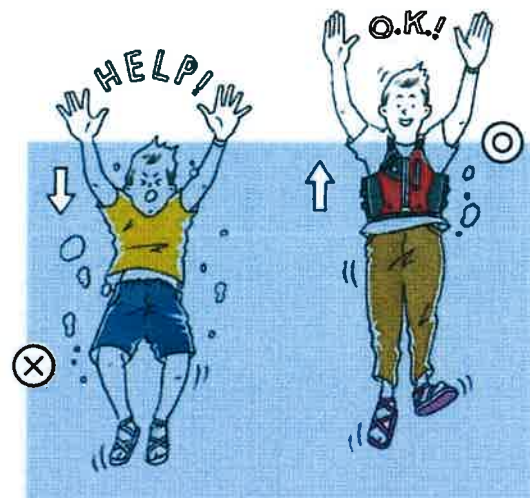


図 17 ライフジャケットを正しく着用することで、常に呼吸ができる

¹¹ 河川財団「水辺の安全ハンドブック」から

流れがあり、足がつきそうな場所で立とうとすると足が岩の隙間に挟まれることがあります危険です！流されそうになったら、膝からつま先を水面から出して下流に向けて（図 18）¹¹、流れの緩いところまで避難しましょう。



図 18 川で流されたときの姿勢

- ② 今いる場所は晴れていても、上流などで雨が降ると、一気に水位が上昇し危険になることがあります。**風雨、落雷等の天候不良時や上流で雨が降っているときなど、河川等が増水するおそれが高いときには、川に近づかないようにしましょう。ダムのある川では、事前に放流情報を確認し、サイレンが鳴ったらすぐに離れましょう。**



（国土交通省）

中州や、植物の生えていない河原は水量が増えたときに水没のおそれがあります。テントは絶対に張らないでください（図 19）¹²。雨が降ったときは、橋の下での雨宿りは大変危険です。

川原の草が生えていないところは、増水時に水が流れていることの証



増水前の川



増水後の川

図 19 急に増水する川

次のような場合は川の水が急に増えるサインですので、すぐに避難しましょう。

- ・水が流れてくる方の空に黒い雲が見えたとき
- ・落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき
- ・雨が降り始めたとき
- ・雷が聞こえたとき

¹² 河川財団「No More 水難事故 2020」から

夏は積乱雲が発生しやすく、積乱雲による局地的な大雨では、急に強い雨が降り、降った雨が低い場所へ一気に流れ込むため、降り始めから十数分間程度で河川が増水することがあり、避難が遅れると流されてしまう危険があります。

川の防災情報などは国土交通省「川の防災情報」ウェブサイト等で事前にチェックしましょう。全国の水難事故マップも参考に。



川の防災情報（国土交通省）

全国のリアルタイム雨量・水位等の情報を提供しています。

www.river.go.jp



全国の水難事故マップ

2003年以降の全国の河川で発生した水難事故の内、報道等で把握できた事故の発生箇所と発生状況等を地図上に表示。



www.kasen.or.jp/mizube/tabid118.html

((公財) 河川財団 No More 水難事故 2020)

- ③ 大雨が降っているときや降ったあとに、土石流が発生する可能性があります。次のような土石流の前兆現象を確認したら、すぐに川や沢から離れて、少しでも高い場所などに避難してください。



土石流の前兆現象のイメージ

(3) ため池

釣りなどの目的でため池の敷地に入り、誤ってため池に転落して死亡する事故が発生しています。立入禁止となっている場所には絶対に立ち入らないてください。

ため池の斜面は滑りやすくなっていたり、急に深くなっていたりするところもあるため、危険です。

ため池で遊ばないように日頃から子どもと話しておきましょう。



(農林水産省)

(4) プール¹³

- ① 飛び込みやプールサイドからのジャンプは、重大な事故につながります。安全な入り方を知っておきましょう(図 20)¹⁴。禁止事項などが定められていたら必ず守りましょう。吸い込まれると危険なので、排水口には近づかないようにしましょう(図 21)¹⁴。

保護者や監督者がしっかりと子どもに言い聞かせましょう。



図 20 プールサイドからのジャンプと正しい入水 図 21 排水溝に近づく

¹³ JLA 「e-Lifesaving<事前学習>プール編」を参考に記載
<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/pre-learning/index.html>

¹⁴ 学校安全フリーイラスト集
https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/download/tabid/1659/Default.aspx

- ② 遊具や台などの下にもぐってはいけません。特に水上設置遊具を利用する際は、係員の指示に従い、適切な遊び方・注意事項・禁止事項を守りましょう（図2再掲）。

遊具や台などの下は、意図せず潜り込んでしまうと、抜け出すことが困難となる場合があります大変危険です。また、水上遊具上から落水する時の姿勢及び落水後の動作によっては、水面に浮上せず、意図せず遊具下へ潜り込んでしまうことがあります。



図2 水上設置
遊具チラシ（再掲）



(JLA e-Lifesaving)

- ③ 体調が優れない場合は遊ぶのはやめましょう。小さな子どもは、保護者や監督者が子どもの体調を確認しましょう。

十分なウォーミングアップとクーリングダウンはケガや溺れの防止に有効です。